

による教科学習教室を実施している。

外国の食料品店・飲食店

労働者とその家族も含めて長期定住する意識が高まると、特定の国の文化に特化した食料品店や飲食店が登場することを、エスニック・コミュニティの形成と呼ぶ。このように、工場等での労働だけでなく、同郷出身者向けの営業を行う人々が出現していると、移民定住の段階が成熟していることの指標ともなる。深江では、南米を中心とした国の店が目立つ。

【参考文献】

大久保武『日系人の労働市場とエスニシティ―地方工業都市に就労する日系ブラジル人』御茶の水書房、二〇〇五年

小内透・酒井恵真編著『日系ブラジル人の定住化と地域社会―群馬県



写真5 ブラジル食料品店



写真6 ペルー系のレストラン
「インカ」の文字が確認できる

入館者9万人は灘小学校児童

1月29日に、史料館の入館者が9万人に達しました。1981年2月開館以来39年目です。9万人目の入館者は、神戸市灘区の神戸市立灘小学校3年生のみなさん（51名）です。当日、道谷卓副館長より「来館九万人の証」と記念品を贈呈しました。



（神戸大学文学部芸術学専修生）

太田・大泉地区を事例として』御茶の水書房、二〇〇一年

梶田孝道『外国人労働者と日本』日本放送出版協会、一九九四年

梶田孝道、丹野清人、樋口直人『顔の见えない定住化 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』名古屋大学出版会、二〇〇五年

梶原久美子『神戸市東灘区における日系ブラジル人コミュニティを考える』関西学院大学 社会学部紀要』九〇号、二〇〇一年

丹野清人『越境する雇用システムと外国人労働者』東京大学出版会、二〇〇七年

二〇〇七年

法務省ホームページ 在留外国人統計 http://www.moj.go.jp/housei/toukei/toukei_ichiran_touroku.html